

令和6年度 第1回 学校運営協議会 議事録

○期 日：令和6年4月25日（木）

○時 間：9時45分～10時20分 校舎見学及び授業参観
10時30分～11時45分 会議

○場 所：プレイルーム

○出席者：学校運営協議会委員6名 A委員（教育関係者）
B委員（社会福祉関係者）
C委員（地域関係者）
D委員（地域企業関係者）
E委員（町内会関係者）
F委員（地域関係者）
G委員（生徒保護者）

学校関係者6名 校長、副校長2名、事務長、総括教務主任、生活指導部長

<会議次第>

- 1 開 会
- 2 校長挨拶
- 3 出席者自己紹介
- 4 議題
 - (1) 学校運営協議会組織について
 - (2) 学校運営協議会設置規程について
 - (3) 会長・副会長選出
 - (4) 学校経営計画について
 - (5) 地域との協働による教育活動について
 - (6) その他
- 5 提 言（意見・要望・感想等）
- 6 連 絡
 - ・次回開催 8月27日（火）
- 7 閉 会

1 開会

2 校長挨拶

本校の学校運営協議会は、令和4年度から設置されたものである。地域に開かれた学校としてこれまでの評議員会から一歩前に進めて、地域の方々の声を反映させ、地域と一体となった学校運営を目指していきたい。

3 出席者自己紹介

4 議題

(1) 学校運営協議会組織について

- ・次第掲載名簿のとおり承認された。

(2) 学校運営協議会設置規程について

- ・第3条3について、県教委より示された規程に従い、昨年度まで明記していた「ただし、再任は2回を限度とする」という文言を削除し改正する。
- ・提案のとおり承認された。

(3) 会長・副会長選出

- ・事務局推薦により以下のとおり承認された。

会 長：A委員

副会長：B委員

(4) 学校経営計画について

- ・昨年度3月に紙面開催された第4回学校運営協議会において、旧委員へ提案し、承諾を得ているものである。
- ・昨年度の学校評価での反省を受け、いじめ等に関わる取組や教職員の働き方改革について反映させている。
- ・「3経営の重点(6)③」について「-15プロジェクト」とは職員の最終退庁時間をこれまでより15分早くする取組である。

【質問・意見】

D委員：「3経営の重点(6)③」について、現場としては具体的にどのような取組を考えているのか。

副校長：現在計画しているのは、ICTを活用した会議の効率化や校内研修のあり方等の工夫である。また、同時に職員一人一人の意識改善も啓発していく必要があると考えている。

- ・他、提案のとおり承認された。

(5) 地域との協働による教育活動について

<今年度の主な地域交流行事>

- ・昨年度の取組の様子を写真などで紹介しながら今年度も継続することを提案。

<学校評価における評価の低かった課題への取組>

- ・端末(Forms)を活用した「こころの相談室」の仕組みを実際の画面を提示して説明。子どもたちが抱える様々な心の悩みを問題が大きくなる前に相談できる窓口となる。パソコン、タブレット、スマホなどから人目を気にせずアクセスでき、相談したい相手を選べる

がメリットとなる。担当窓口は副校長。

<災害への備えについて>

- ・2月の大雪の際には2日間の休校を余儀なくされた。その間、帰省できない寄宿舎生を預かるため、校内に備蓄している非常食等で対応した。今後も災害時に備え、備蓄品の充実の必要性を再認識し、学校としての備蓄品等のあり方や災害時の避難対応について改めて整理し検討しているところである。同時に地域の協力も必要と感じる。

【質問・意見】

C委員：端末を活用した「こころの相談室」について、子どもたちはどの程度端末を上手く使えるのか？

生活指導部長：現在対象としている高等部の約半数は、自分のスマホを持っていたり、自分でタブレットを操作して検索したりすることができる。タブレットなどの扱いが難しい子どもについては、担任をはじめ身近に関わる教職員が日頃から様子観察をしたり、話を聞いたりすることで状況を把握するよう努めている。また、家庭との情報共有や年に2回のアンケートの実施などでも丁寧に聞き取り把握するようにしている。

- ・他、提案のとおり承認された。

(6) その他

- ・特になし。

5 提言

F委員：みこし交流では、年々実施しながら絆が深まっていると感じる。最近では久慈拓陽支援学校の子どものパワーがこちらの励みにもなっている。交流やつながりについても実施しながら少しずつ地域との輪を広げていければ良いと思う。例えば、侍浜小学校、中学校だけでなく他の学校とも交流を広げていくのはどうか。久慈東高校と久慈工業高校が統合した後に工芸班が交流するとか、他の高校などと一緒に販売活動をするとか、できるところから少しずつ試しながら進めていければ良いと思う。

G委員：これまで保護者として日常の様子を見せてもらうことはあったが、今日は説明を受けながら、見学させてもらったので分かりやすく良かった。また、本会議を通して更に学校の取組を詳しく知ることができて良かった。

E委員：町内会としても昨年度は無事全ての交流を終えることができ安心している。今年度も早速、クリーン作戦について打合せをすることができた。あとは、天気にも恵まれることと、住民たちがたくさん参加してくれることを願うだけである。2月の大雪では、寄宿舎の生徒たちのことが心配だったが、自分たちも身動きが取れず大変だった。堀切ふれあいセンターが避難所指定されていることを受けて、町内会でも自治防災組織を立ち上げた。今後も町内会としては、できる範囲で協力していきたいと考えている。

D委員：子どもの命を守ることが何より最優先となると思う。経営計画にも「命を守る教育の推進」とあるが、学校の外から守ることも必要だと考える。ハード面で言えば、校内外における防犯カメラの設置により不審者等から守る対策なども必要ではないか。ソフト面では、地域の方々とどのような協力体制が取れるのかなど検討していくと良いだろう。

C委員：今年度も交差点の三角花壇の整備を是非よろしく願いたい。侍浜町民に配付している市民センター日より「海鳴（はまおど）」も学校の広報として活用してもらいたい。

学校行事のお知らせ等周知したいことがあれば振興協議会広報担当へ連絡をしてもらえれば対応する。災害時の対応については、久慈拓陽支援学校は寄宿舍があるため、不用意に地域の避難所等へ移動したりせず、学校に留まったまま市の防災危機管理課に連絡をするのが良いと思う。連絡をしないと困っていることが伝わらない。孤立していること、救助を必要としていることを自分たちから発信していくことが大事だと考える。

B委員：組織的に経営に関わることの大切さを再認識した。久慈拓陽支援学校は組織経営がよくできていると感じる。社協ではコロナ禍により4年間対面での相談業務ができなかったが、昨年度からまたハンディのある人への相談対応を再開するようになってきた。日常生活支援から成年後見に関する相談など様々対応している。福祉作文の取組を今年度も予定しており、その際は久慈拓陽支援学校にも協力をお願いしたい。毎年多くの学校から素晴らしい作文が寄せられており、侍浜小の児童からは久慈拓陽支援学校との交流の様子を綴った内容もあった。災害時対応について、久慈市の社協は市内で最大の避難所となっている。全館空調設備が完備され、太陽光等による蓄電設備も整えており、最低限の明かりだけでも確保できるようにしている。今後も災害時における対応や体制について、検討を重ねていきたい。

A委員：防災については、本校も力を入れているが、見直しを図っていかなければならないと感じている。2月の大雪では、小・中学校では連携を取っていたが、久慈拓陽支援学校も大変だったと思う。昨年度は高等部の清掃班の生徒に本校の廊下清掃をしていただいたが、業者が行ったかのようなきれいな仕上がりだった。きれいになった廊下を写真に撮り、本校の広報にも紹介をさせていただいた。車屋の友人にも久慈拓陽支援学校の実習生は大変好評で、機会があればまた受け入れたいとも言っていた。侍浜中学校は、令和8年4月から久慈中学校と統合する予定である。それに伴い、その後の久慈拓陽支援学校との交流のあり方についても前向きに検討していきたいと考えている。

校長：今日は様々な立場の方々からそれぞれの視点でたくさんのご意見をいただき、視野が広がる思いがした。今後お願いしたい。

6 連絡

- ・次回開催 8月27日(火)

7 閉会